

マダムK.O

帝キネ 現代映畫

原作 竹田敏彦
監督 川口松太郎
撮影者 小原譲治

主要役割

千代菊 鈴木澄子
八島 瀧長太郎
片岡 草間實
保二 島田大輔
木田 國城

次郎 津島孝
片岡の父 中村かん
同母 三柳つる
お末 日夏高枝
逸郎 鈴木高彦
小間使 山月弘子
宮武 秋月榮一
水原 手塚鐵一

解説 川口松太郎氏の「若き女性におくる」に次ぐ作品で、「婦女界」所載小説の映画化である。
略筋 慶應出の八島陽一郎と早稲田出の片岡は故里の高松へ歸る早々共に藝妓千代菊に戀を感じた。八島は父の跡をついで高松商事會社の社長となり片岡は香川商業銀行頭取の息として銀行業に身を委ねたが二人共に仕事も手につかず千代菊を思ひつづけた。そのうち八島と片岡は遂にお互ひの心の中をうち明けた。そして争ふだけ争ふても、どちらか彼女を得て結婚を挙げる時には敗れた方は必ずその式に列席して祝盃を挙げやうと約束した。片岡も八島も千代菊に求婚した。併し女は一樣に再考を約したのみであつた。そのうち片岡は上海に出張してある父の急病のために上海に急行したが、



寫眞 「マダムK.O」帝キネ川口松太郎作品。中央が主演者鈴木澄子。

遂に父の遺骨を抱いて歸るやうになつた。所がその悲しい彼の歸國を待つてゐたのは八島と千代菊改め讚子との結婚披露の招待状であつた。その披露會の當夜は皮肉にも父の遺骨の前で通夜する片岡は八島に對して將來復讐すべく決心した。數年後八島は兵庫の甲子園に移り、讚子との間に逸郎、夏十、進郎の三子をあげたが、讚子は野球に熱中して高松商業の宮武、水原、井川等のパトネスとして皆に姉の如く慕はれてゐたが家の事は些かも顧みなかつた。高松商業優勝してその祝勝會を彼女と夫が建てた。高松商業紀念會館落成式が盛大に開催されたがその時、八島は相場で相手方に廻つた片岡のために一敗地に塗れて自殺した。讚子の夢は初めてさめた。彼女は子供を連れ高松に歸り再び藝妓に出て生活を立てる事にした。この時片岡は故郷で重役に就任して得意の絶頂にあつたが、彼は又も讚子の千代菊に求婚した。元々片岡を嫌ひでもなかつた千代菊の心は一時傾きかけたが折柄慶應の第一投手として有名になつた宮武の激勵の手紙を讀んで斷然決心する處があつた。彼女は早慶戦に自分の運命と貞操とを賭けて早稲田が勝つては早稲田の片岡に嫁ぐ、慶應が勝つては慶應出の夫の遺骨を守る、この動機には片岡も賛成した。その早慶戦の日は来た。遂に宮武の健闘空から五對四で慶應が勝つた。片岡も初めて正々勝負、勝利思ひ知つた。